瑯海異聞

四

N04

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No. 4

1909407

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

漂客異聞巻之四

飲食 第二

食事ハ日ニ三度用ユ朝ハ小麦の蒸餅ヲ一食ニ四ツ宛ヲ焼ムまでありて是ヲ朝の餉(かれい)ト云ヒ中(ひる)の餉ハ魚ヲ煮食事ニ及ヒ夜ハ又裸麦の蒸餅ハ牛肉の煮ヲ用ヒ

麦餅ヲテレブレトヨ(ヲ焼ケルハパントヨフ和蘭ヲフローレト云ヒ)ヲ常ニ食ヒシテ裸麦の粉ヲ蒸焼ニシタルモノヽ

麦ハ粉ノ数階ヲ車ヲ以テ石ヲ磨キ

上武蔵 潮崎

都府くの乃中ニ六風俗ニて拵せるとゝ

一ケレブ 是ハ定法のあく麦の粉をもよ
わ〳〵焼り煙ニて候とも一ツ是やさふとも拵ゑ
其中焼ゝとゝ〳〵煙〳〵かゝあるゝとの二ツニ
つく〳〵ゐ〳〵ゑ亜日本俗ゝの味ひゝゝとゝる物
ゝゝり出ゝ乃ゝゝ吹ゝ宮後ゝゝ稍ゝ酸味
をゝ出ゝるゝ也ゝゝの如ゝゝゝ物をゝゝあゝ
製ゝゝのゝ多ゝゝ候あケレブをゝくゝらんと
ゝゝゝゝゝ麦の粉の外をゝゝゝ陽ゝゝ
ゝゝゝ是ゝ亜日本俗ゝゝゝゝゝゝゝ

隙堤を細うる砕きそうそうあ〜かさ迎〜
許をおきおの的方の宝銀うそうそうそうそう
又是ゆ〜〜〜うを迎〜〜又引と称うを場
かよをよ程八捏〜〜く隙とあるをうをうそ
打そをを隙堤と此う人おおうう事せふ
さそうく甚大小堤祥富の内てあおてある焼
そうそうの上へ並くそ焼ふそうこ灯のそうの
ふい〜〜あ〜竈の内を下地へ礫をうそうそ
此〜〜うそのこをよ内おそ彰を楔をたつる
あれい尾楔大うおうそそうおよ内ふあお
楔ふそう〜〜のおをでそうそうおそのそう

生玉ころ物を漫沢のはのわくふあり京円
人形の往来考〳〵一七日斗り用日参さを一ぞ
小製一ー至く此物多夕の合るまて用ゆれ
的小力みるあ落ちいきるるるるるるるるふ
功去ふ功もあるを初ハ落ちて下ろるやーふ切
るをよ後ーと次仕ねれるまハこる俗参落
生まてつん若ーるるり
小麦のケレブハ是を製法あ通ふれそ実ふ
ちを入れその円ふ投ーこをひ参るてまる油
ろる書油の染ふーかくこうるるるる至雪の
円ふ油ーくちひちあをあふ油りこち

又芝をうさぎ（ママ）ゝゝ（ママ）ゝ（ママ）ゝ（ママ）

去ル（永年の牛の乳を小児に与ふ）其主こゝか牛町へ日〻牛乳を売ル
る牛なく毎度次あ牛屋ゟ取れを売る
小児大ニ減ゝ子頃小向ひ力を極あこる
打ツそゝまゝまゝとゟる家を吹ヲへそし
通一教次ゟり牛乳ゟり皮ハ剥き肉ゟゟく
小ゟゟゟ川豚猪もゟゝゝ食料とゝ
肝ゟ臓を列て物ゟゟまゟゟり
大小揚ハ内をゟへ川をゟ通一
ゟゝ皮ひ法一ゟ内へ後梅
ゟゟゟる牧別の高麦をつゟ雑ゟ狐
ゝふれゟ蒸焼ゟ一小口切法

四ノ鞣(なめし)ノ實際ノ話ヲ上ス

皮ハ水ニ浸ス迄職人ノ仕事ト云ヒ其ヨリ後ハ

ソレヲ取扱フ所ノ仕事ト云フ――ソコデ鞣ト

ハ――法ノ如ク生皮ヲ以テ製造スルコトノ

ヲヲ――是生皮ヲ腐ラヌ為メニ――

其ヲ乾カシテ持チ運ブ間ヲ云フノデアル――

ソコデ之ヲ白ク仕上ゲルノニ重大ナル

水ヲ使フ事ヲ知ラネバナラヌ用ヲ為ス

ノ次第

牛ノ皮ヲ如何ニ仕到ルヲ知ルヤ

ヲ示入ルソノ次第ハ――ニ

松ハ四月を待ておき申候吹をさし
通次と申候

一 牛乳を牛生そのまゝ此食料小和布(そを)
とろゝ 物ハ先麹酸菌強ク和布そのホーとゝ云物
強ク乳ニ而カースレと云ものを酵母ニ而ハ
常食用 諸処ニて煮四ツ頃其乳汁をとるニ付ハ
先牡牛ニ乳ハ積をつけおきこゝ吸出さ
る事故ニ而ハ能ク追付人(母)牛の乳ふ
さふるまゝ後ニ出ル桶へ滴るゆゑニ
穴をあけおかゝるゆゑ又其乳汁より
油をとる又料理ニ用ゆるものを二スラト
ゆ

ヤコーテフラーツケハ馬乳をものもは
大いふ酔よそのありときゝてトンコス」は
麻比乳酒も呑とふ
カボーンカレとふ松あり　七湾ふ生物うけハけ物と
ありと物ふコールレハ和名の花をよふ和名の二種を七湾みこる
称生ゝ名の花と名ふうつるあふコーリナとよふや倍称のボタ
ニナシヤガタニテとふ　皇を細ふ刻こ書称をかし様を指
をかく大将ふ仕の迎こをふ酸味をは次をあれ
大いふよりこ多ふあれも是を似る称こる
こるふ　牛肉ハけをこる黄金ありを
黄こ方ふ武外るれハふ物焼ふ一称
ねど又かこ迎　肉体入れ黄飛ふ

入れて能く煮込み煮立ちたる時
煮和らげ一面鉢に汁と肉と俵なりに盛り青豌豆を
ゆでて盛り合せ出すなり西洋人は日本
の牧牛は味美汁を俵型に盛り合せ出すと云ふ
牧牛は悪しき故なり沢山ある故なり
日本の味美の用ゐ例多き牛肉を挙げ人多き
の食料とせん但牧牛は日本牛肉より一切上
の肉をとも唯美なるの肉故を挙げし故牛
用ゐるなり（ロ）牧牛の名人多きハ
牧牛を飼ふ方法
牧牛は清潔を主とし一切上等の肉牧牛
挙げて美肉ハ汚れの物と思ひ羽美敷を

煮こごりも魚焼仕――てんぷら等ニ登用ゐてふ奥をふまぬ杯ふくろみ魚焼ニ――こごりニ成ニかけるる杉奥ぬ油あくともふ甘ふ成るなる奥数ハ川奥ふ新奥ありカーテーヨバイカルと云湖ニて漁りまるオこもり魚（ゐる）と云魚オエヤラシナ（ゐる）をく殺ふ仰（ゐる）ふといよ大奥乃数ふ食料ニ為て皆塩ニ成ニ奥をも用ゆをヨーカラといよ（ゐる）

（ゐる）

雑雁等我等の数ハ畜ニ為ニる食料とふ次ニふ畜ニふたるふ百羽あれ百ゐる雛を育てるあり秋ぬこふふれハ数ふ殺

粉剤もよろしくあり粥にたるものは
小麦を牛乳油煮さらに煮食ふ

一　麻仁酒煮客客のゆありけゆは粉造日ふ
きよ

一　塩は山塩をよろしはあをかそそるもの一個
日分こうあるふとよし

一　粉(コウゲ)を牛乳ふるをかく粥にふとをて牛
乳油をさし客食の日をもさし粥ふ
也汝小児に右のおく割一日分をかく
分をそそる事一ふなり

牛乳亜(アメ)剛(リカ)新加の

地こりかまるれのよ一粒米にて交易次
しだいにて試合多く得るべく相談百枚をもち
いて彼銀をねくまで細くしてよく風味も
悪しからず

一 玄米醤(クヰ)は細くきざみ銀一匁に風味日あふまして
皆ら次生(ナマ)にてきざみ麻油を油をさし一粒進日ふ用向有(ニンヒ)薪(タキ)は黄こまめ
黄(カラ)まで焚(タ)き飛ぶくらい色赤一粒食上味ひ
出て甘し

一 死生(シニ)まで焼薬物(トウカウヒ)は唐山より交易あり
けれども人と薬物をなす合(ガフ)解毒のもの

といふ事なり茶もこれをもちゐる

〳〵茶もこれをもちゐる

もつて茶をかき立つるやうに

一コーヒテレといふものをもちゐ(カヒテ)碧盤

(ニ)をもちゐるありムクロの形のごとくなる

ものに柄ありこれを手にとりて

まぜ立ます有て茶碗と次

そのごとく物に細かなる布袋をかけ

茶こなどの如きものにて湯を注ぎ

湯ふり出るをまつて茶筅にて

うごかし立るも次にくめばみづくだかれ

を振出しをこまかにしたるを

のまゝ次も中等以上人の用ゆるあり

物和菓子コーヒーホンしとよく別洋菓子

一 ヤーボルキしとふるを芋あり煎茶を出す好し

芋(ニセ)ホ仰ふり

物ホ和菓ホ洋菓アイルドアップルあるう色生菓子

を作へ吾邦ホも有生菓子ホ果ーくく

ヤーボキうるやをそ〳〵次

是をさそうふ〳〵ホ細まよそうるあり

ヤーホルキ物ムツカとふ山芋の形祝そう程ホ

小麦粉ホ加入ーー製ーーふ〳〵当ホそ次

そのあり

七松風俗ヲ以醫ヲ始ムルカ
ヲ第ノ部ヨリ載ル風俗ノ部ヨリ載

一酒ヲ初メ〳〵青醸酒ヲ上トス名所
地ニカヽル事多シ中ニハ八ツ手
ケアンケリ又ハ上酒モ菊酒
ゲンライ」ヲ云フ酒食ヲ初

一人ニ対シ口ヲ開キ其ノ内ヲ指
指ニ赤ヲ添ヘ上ニテ女酒ヲカケテ其ヲ
ヲ下ヲ向ケ又奥ヲ清ケ
其ノ所ヲ指ヲ酒ヲ上ヘリ」ト云フ

一煙草千七松ヨリ産ス初煙草ヲ高山ヨリ来ル

一 山ごもりの時ハ山国の人多くハ喫煙せぬ物故(ゆえ)
よく人にまれ〳〵二吸てみることを奉(ヤウ)ねるもの
ヤコーテレラーッテ」ハ甚好こ吸上るもの
の女ども徒(ただ)喫煙をまねるのみ

一 喫煙するよりあり是煙草を初(はじめ)まり
ぬ〳〵ころ也(なり)ける喫ところ女人い
まだ次たまゝ老婦なと善きものをそ
加ふる湯を飲湯をまた加ふるをそ
くり

一 拙(つたな)き喫煙するもの葛湯と評するを

一 永湯を常にするもの若(もし)かあり〳〵次煙するを

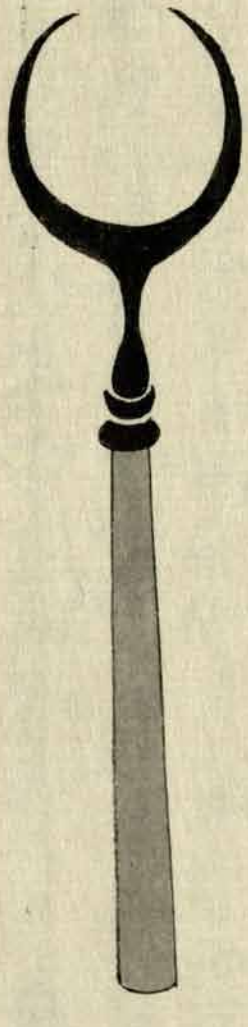
猶次是をツンカレといふ二個体連(つら)なるものゝ別(べつ)名(めい)

一 食事(しょくじ)と仕掛(しかけ)は婚禮(こんれい)當日(とうじつ)の話(はなし)を添(そ)せるもの——年日(ねんじつ)として九食盃(くしょくさかづき)(形(かた)は口角(こうかく)盃(さかづき)を角入(つのいれ)にしたるもの)を盃(さかづき)に中央(ちゅうおう)に並(なら)べ盃(さかづき)のまわりに人数(にんず)だけ箸(はし)あり香(こう)の小鰭(こはだ)の切身(きりみ)相縁(あいえん)にて盃(さかづき)に盛(もり)之(これ)を洛(らく)とす又(また)小皿(こざら)を重(かさ)ねて中央(ちゅうおう)に食物(しょくもつ)をもり盃(さかづき)にて傳(つた)ふ又(また)肴(さかな)を取(とり)て肉(にく)を刀(かたな)にて切(きり)之(これ)を與(あた)ふるを食(しょく)ひ汁(しる)にて又(また)をこゝにて義(ぎ)又(また)ふるまふ

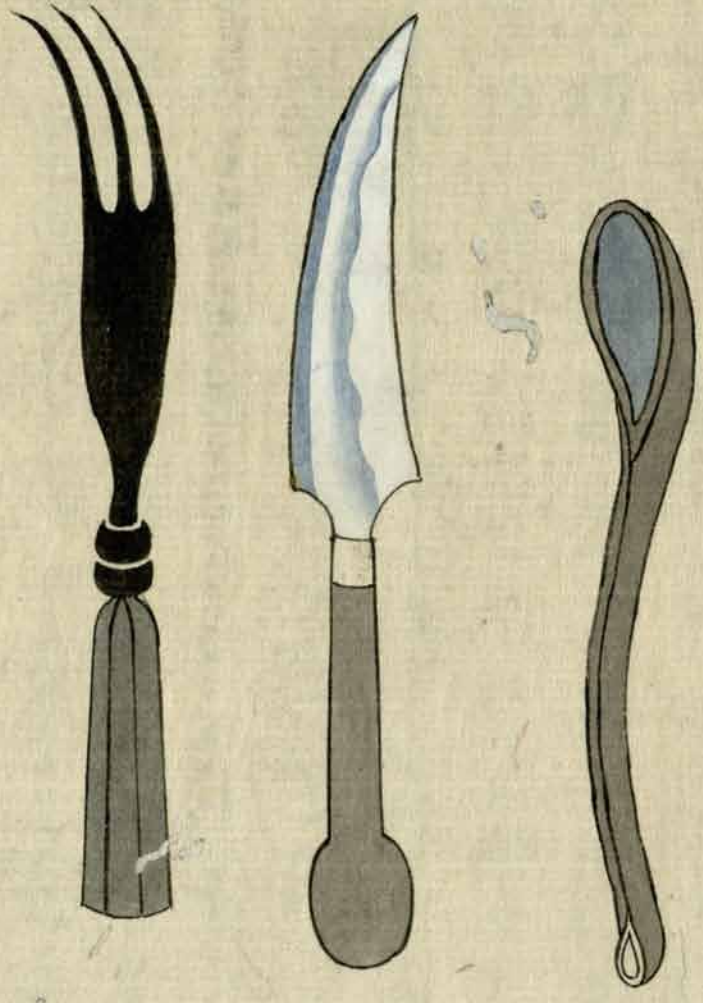
の物に比べてすくなく吸ふ（のは今法敬寺と
ふものあるそう）酒
あれはさうでもないがこれを得ると得ざる盛ま
た面白き白木綿をあるく是卑称
也 又落こぼれ
幅広のものに依て様〳〵の模様 絵を書
分るをもて其名を分ち和らの内にてこゝろ得
ぢうをもてくをもてう

牛肉ホそのほそ
紅よのごと考る
紐之図

紐を考そ寛の
月く出一のごる次器之
図



食盤三ツ道具圖



服飾 第三

衣服を皮爵の尊卑ふるまでこれを
少事と雖も年来詳なるる故に仍て次に
西人彼の物語を略記す併し彼と国
土気候を異にするを以て悉く国俗に
合せ難き事多し彼国ふだんも
こそ名のみ物語りもするなれ
用ゐる体と号ふ侍ふまでふうあり
その国
ものゝ
ハトロボカレと云綿入のことをいふ
皮衣あり毛織用ふることを著ると
ころの部の図をもつて是を
セリトーカ

こゝに用ゐる草衣なる商人ゐてそを用ゐさせ
テ上着ポロケ、麻布よ似りこゝにタノイを脱ぎ
の下へそこにナルケイあり是次細ふしこれを分
解ゐそこをそゝる上ふサハきとり上物をそゝ
ぎられハ草ゐそく作ゐそゐる織物そこの後追ゐ
オルカビワサ草ゐそる似りる袋オルカレハ
なり
ベリテヤツカ夏用ゐる袋パンニキ夏用ゐる
皮当附属ゐる蒲ゐそゝり草（スゲカワ）なる後ゐ
ヤニ
円ハ鳥のそをのれる載ゐる籠北そこ（ミカヒ）ゐる
なる鹿のそゐ
便あり。フートレ四ゐ用ゐよ洗十四枚ゐそこそ
枕ハ筒
のこゝそゐものく是又似り蒲ゐふ用ゐく

形状大小色彩等ハ枕ノ用途ニ依リテ異ナルモノアリ
又中ニハ全ク枕ノ用ヲ為サヾルモノアリ
枕ハ寝ル時ニ頭ヲ支フルモノニシテ
其ノ用途ニ依リテ種々ノ名称アリ
オシアフトヨバレルハ寝ル時ニ用ヒルノ
ミニシテ昼間ハ之ヲ用ヒズ
形ハ円筒ニシテ両端ニ蓋アリ
其ノ中ニ籾殻ヲ詰メタルモノアリ
又中ニ空気ヲ入レタル「ゴム」製ノモノアリ
ポロトーカ（アイヌ語ニテ頭ノ物ヲ支フルモノヲ云フ）
又ハトヒトヒホロトーカ（ノイスワク）
ナリセイチカ（髭）ヲ防ギ頭ヲ冠ル

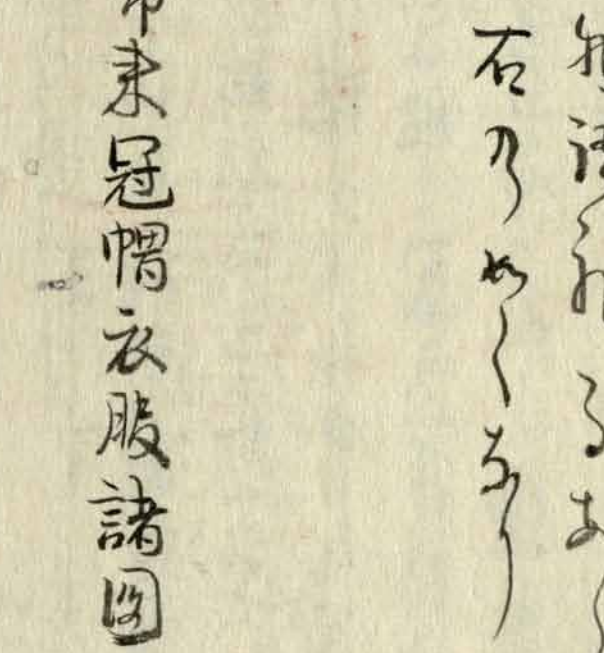
その面部の表を(おもて)——(ふち)に沿(そ)ひ
物(もの)の様(やう)に彼(か)の山形(やまがた)の縁(へり)で常(つね)の如(ごと)く
を冠(かぶ)——それは其(その)の表(おもて)から——ここ
迄(まで)ふ図(ず)を
オロシイア国(こく)首府(しゅふ)の衣服(いふく)をサうゐこ」と
田舎(いなか)やさんの形(かた)く五六十(ごろくじう)年(ねん)の婦人(ふじん)の如(ごと)
用(もち)ゐるその中(なか)に真(まこと)に其(その)の帝王(ていわう)
の衣服(いふく)をのぞ(かぶ)めるふ政治(せいぢ)革(かく)——と云
様(やう)に私(わたし)は帽(ぼう)るが孫(まご)あるとふ
コーヒキの毛皮(けがは)をつけるこ(ふる)ふ
図(ず)ふ
と其(その)人(ひと)をボフロフ「ラワコ」の

床をはらひ日本仮名ノ「サノットト」の服ハ
眉あらた方こ有るさせるこのことを形て
銀絵ふく似りたる処をスウイワタ」と
よ（望ノ系のるこ又肩より掛こ胸袈沙衣の乙を
そのをレンタ」とふ其友信の記号みこる
友のそを人い皆用るこ赤色とまを色とを
帝王の用由る処ハまを色こあるは六人処
セナアッテとこる大友の人をを作まるこ
青を用るハ帝王とまふ七人のうこいろれて
彼師を大抵日本のようあれも冠
袍を羽をの色こく友無財の尊皇ふる

ず――なるべく細き天鵞絨又は繻子類ハ最高上等
卑賤の者も常被物布ハ勿論ゝ
をも用ゐ是土地ハ木綿類を専ら用ひ絹布を
多く産ずるゆゑ絹布ハ多――高価
より安物次ゝ多くそこの絹布
をも被ることもあり又ハ多――
用向ハ兎をハオシ（カンヒコ）ハおて膏る物多り
彼をそ家ゝ衣被とも（内ハうもあり――く指
とせぬ（そふ仰ふるゆゑ）ハ多様
ソーコリ貂（止里）地方の名産ゆゑ
此言とぬとをまたそのもっハイカル（胡蝶トン
ゴス）射とるもの殊に（正ふのをふる）

浪徐なるをおセナーッケしと人をうを帽の
通り常人をかうもしり是みて芸なるまの
ありまく冠ハと両ふ小里を有住ふまりて出里
金浪き流ふなる正中ふまるるれもも
汐まるまま赤まるまるまかもえくまり
九な人のレンタしハ織物赤をいろ〳〵あり
ズウイワクしハ彼のたりこ方こそけスう
イワクしハ芸住ふまを正まる場りまる
を用ゆるく又買い求をまるもをな無財
ふまりてズウイヴタまあるをかるる人をレンタ
しをう用ゆるくまるまて住昇くてを

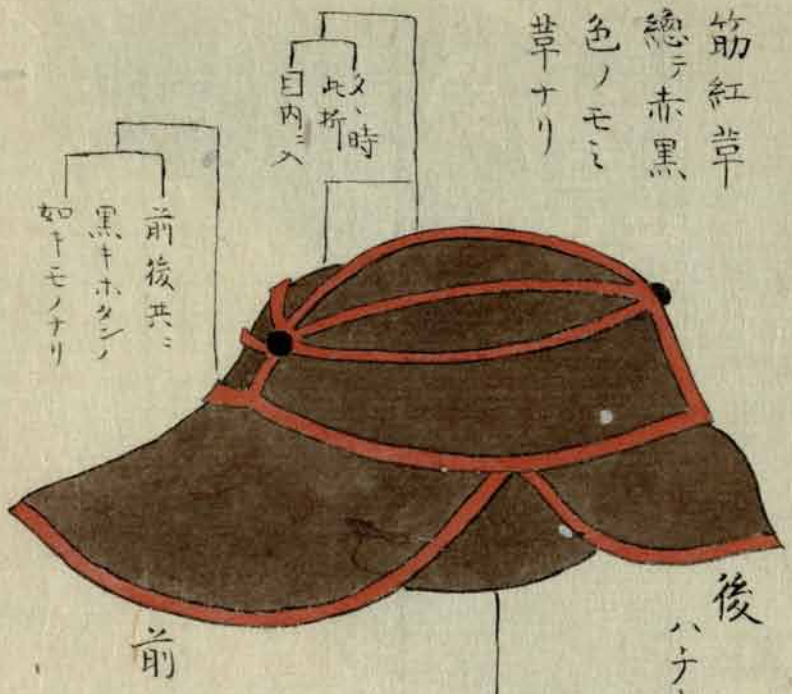
まのまちの〳〵ゑる人を位るくても常の通信
おかしなあんを日なるなの　何ぬしの家何をも」
サノハットし」の話〳〵はそーよな人騒〳〵ゆをふ
まるをんーまは皆スウイヴタしの狂うそう
話役人るる事ーー
しサノハットし長海ゆ後前〳〵生的事ひーースウ
イツダの新狂有ふうけるしンタし」も
国王まを賜る事るりとそう
衣服し製変そまく〳〵あるる事ー
るる事もんも深窓おそる
まるハナふのこるる事ーー



漂客常束冠帽衣服諸図

カリトース

筋紅草
總テ赤黒
色ノモノ
草ナリ



ハナノ裏カバ色ノスベ草也

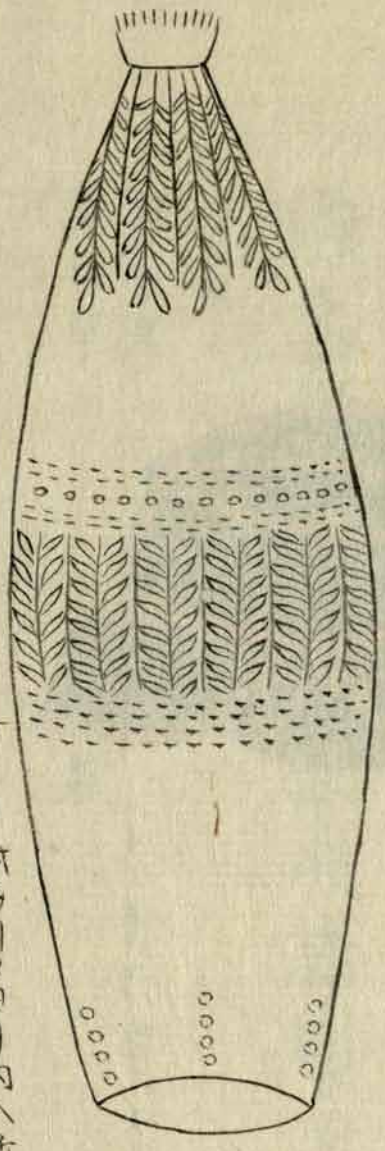
ト云ノトモ草ニテツクル

草帽子
道中専ラ用ユ

カリパーカ

メリヤス裏中

メリヤスノ如クアミ糸モノアリ



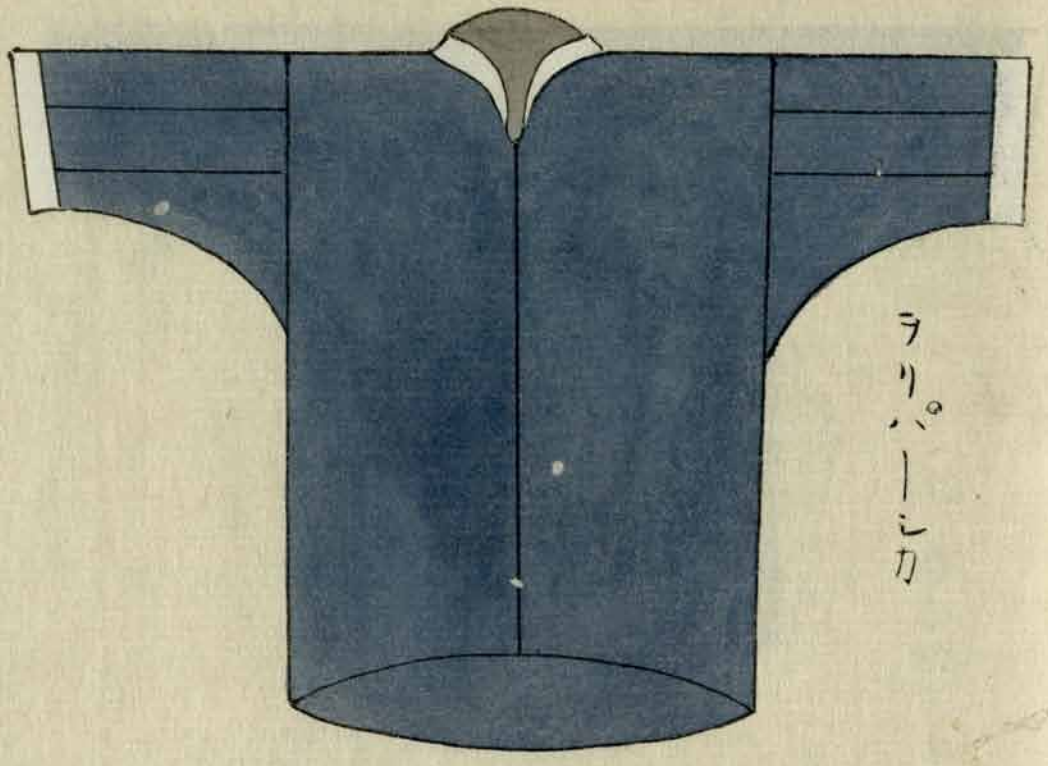
ヒラリメヨリ内ヘ折込テカブム

ヒ帽子天窓ノ内ハ男女共ニ

冠ル事ノ出来ル様

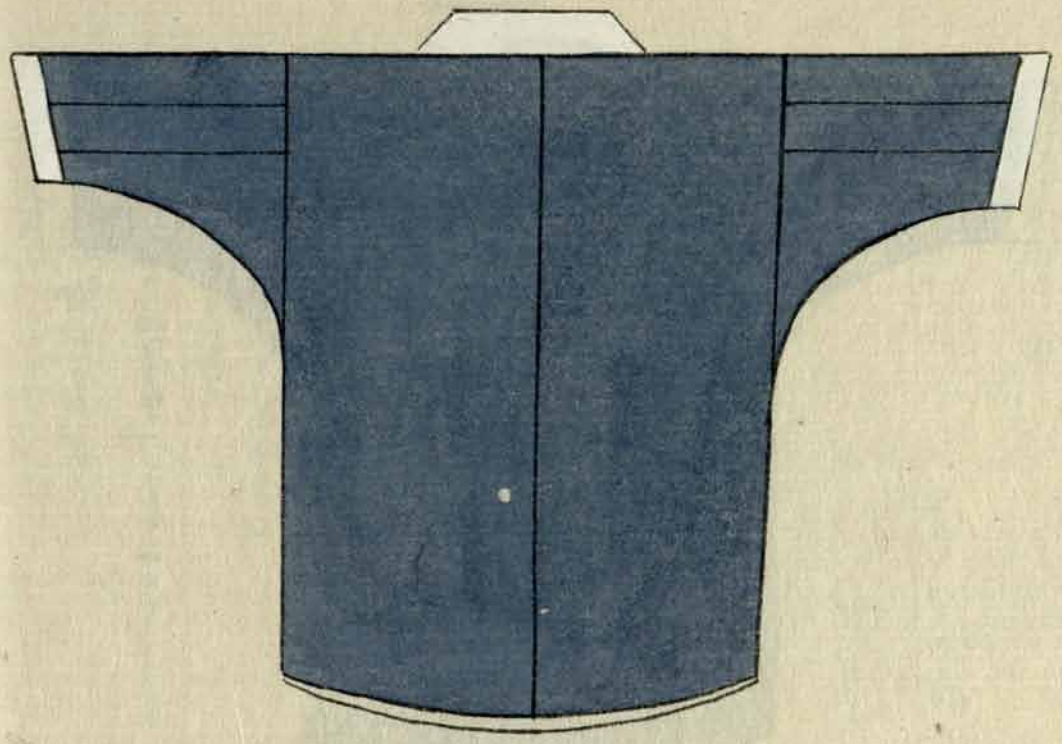
柿ノ和紙ヘハスラープヲユワツ」トイフ

雨帽ノ義ナリ



ラリパーシカ

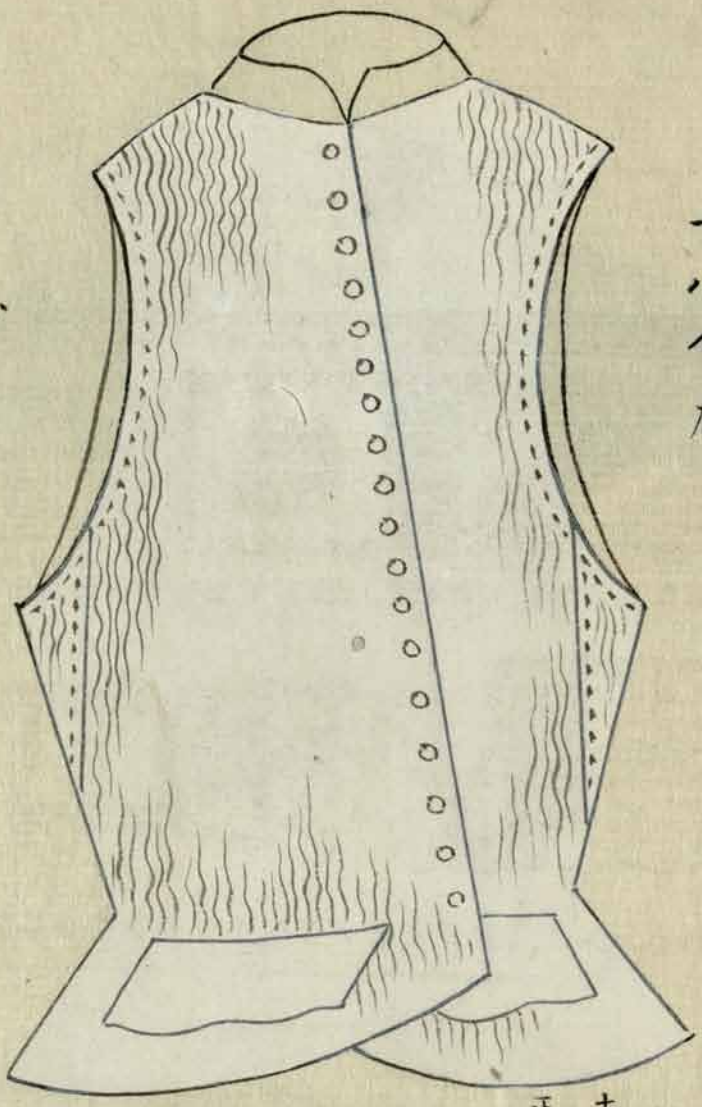
肌へ付て着る襦袢なり
麻もあり木綿もあり
濃州惣本御襦袢單
德玄色



背面

フハイカ

胴着白地形付胴着



表白・チリメン如キ物ニテ正シク

濃紫白

白

白

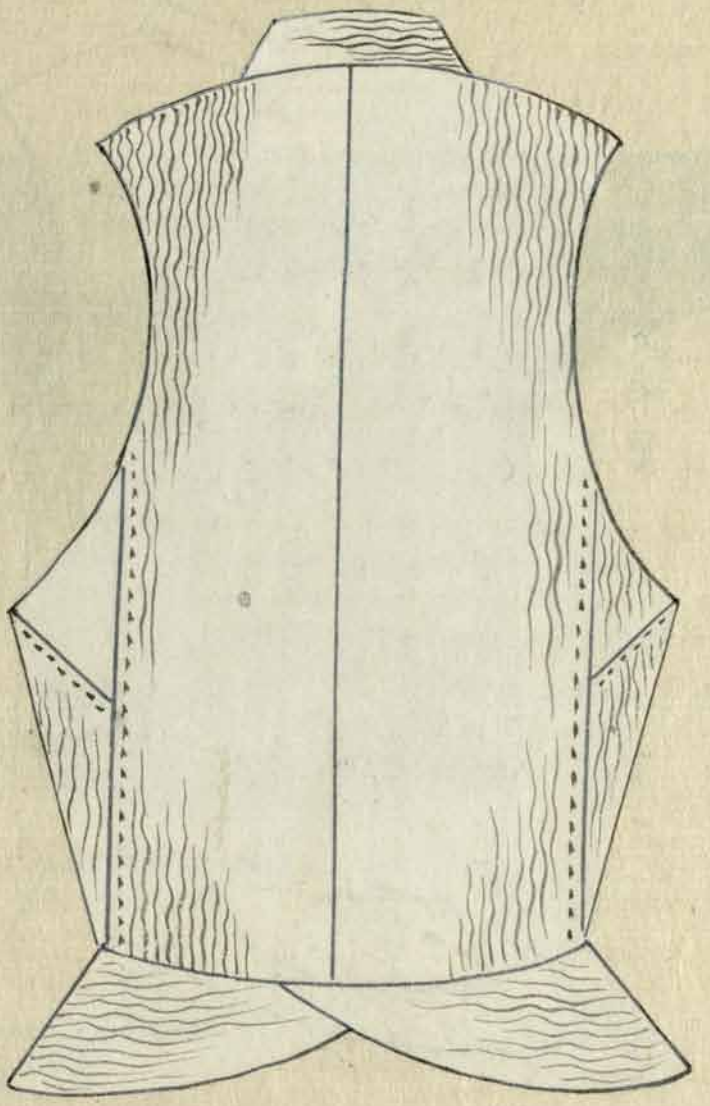
紫ノ〆ノ如クノ筋アリ

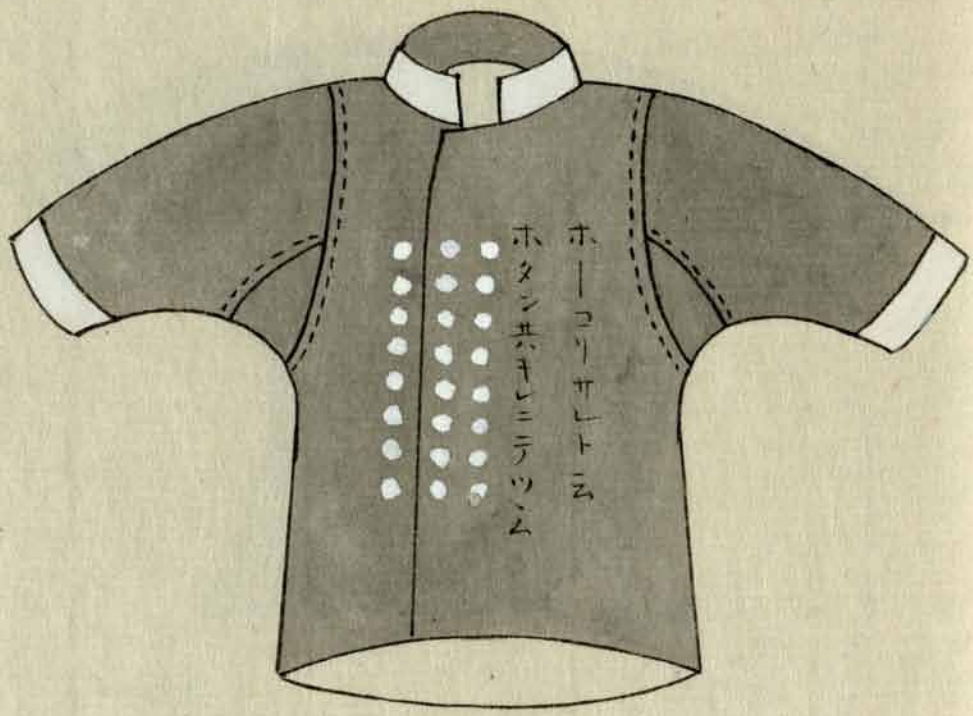
白淡紫

如キ

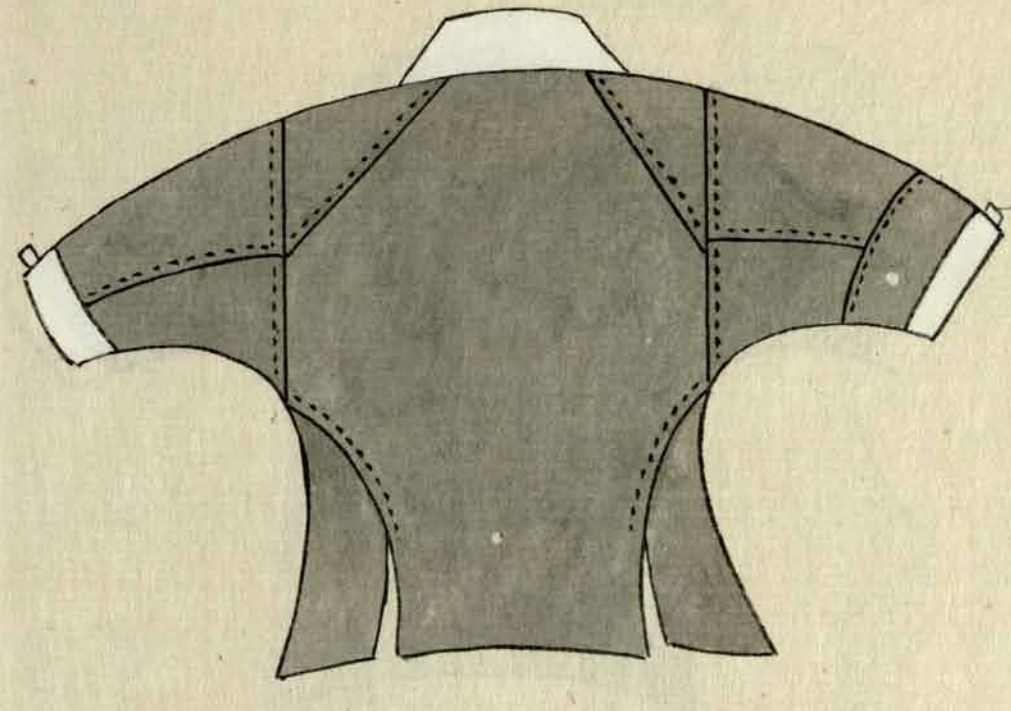
総白麻裏

但背白麻単





鼠色草
がミウー
木綿胴着



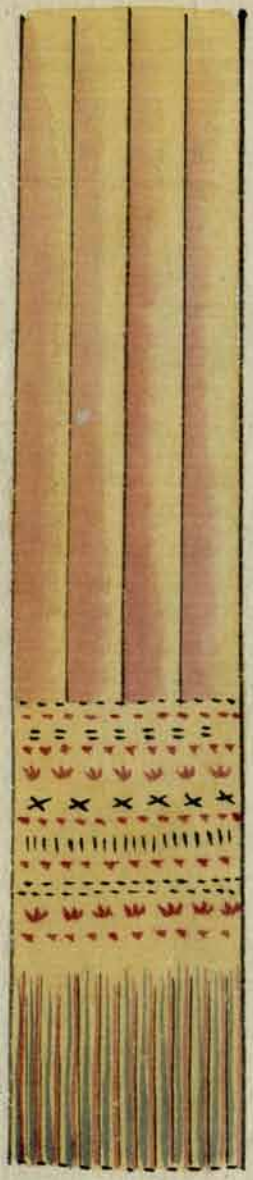
ボタン白布ニテツヽム

背面

テヨロケ
白木綿
足ノメリヤス

テコルケイメリヤス組ニシテ足ヨリ
膝ニテノバメルモノナリ其上ニ草ニテ作リタル
襪サハキトイフモノヲハメル

シヤーカ
ヒダラトリタム

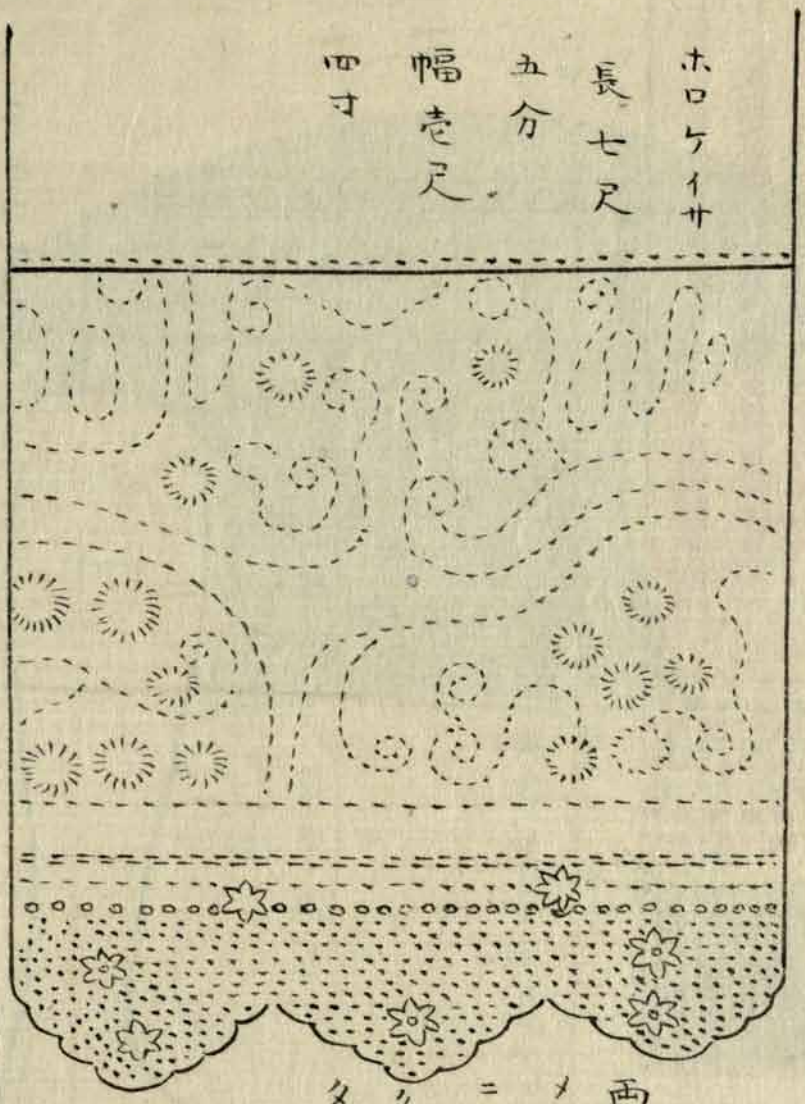


茶色木綿帯 田舎ニテセリトーグラ名
タル上ヲメルナリ

両ハシ如此飾アリ

アサ共巻丈
一尺六寸五分

ホロケイサ
長七尺
五分
幅壱尺
四寸



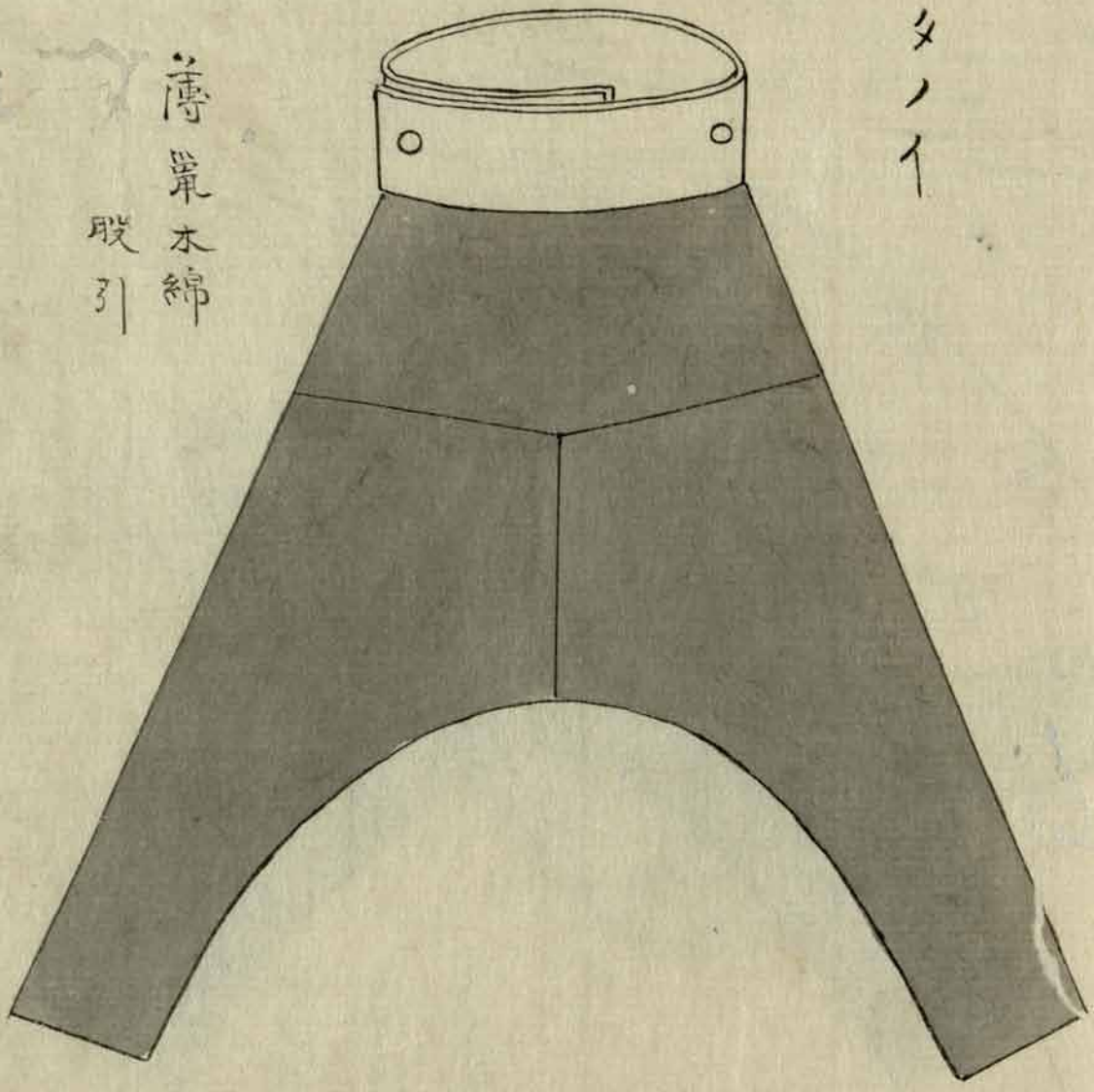
白麻手拭

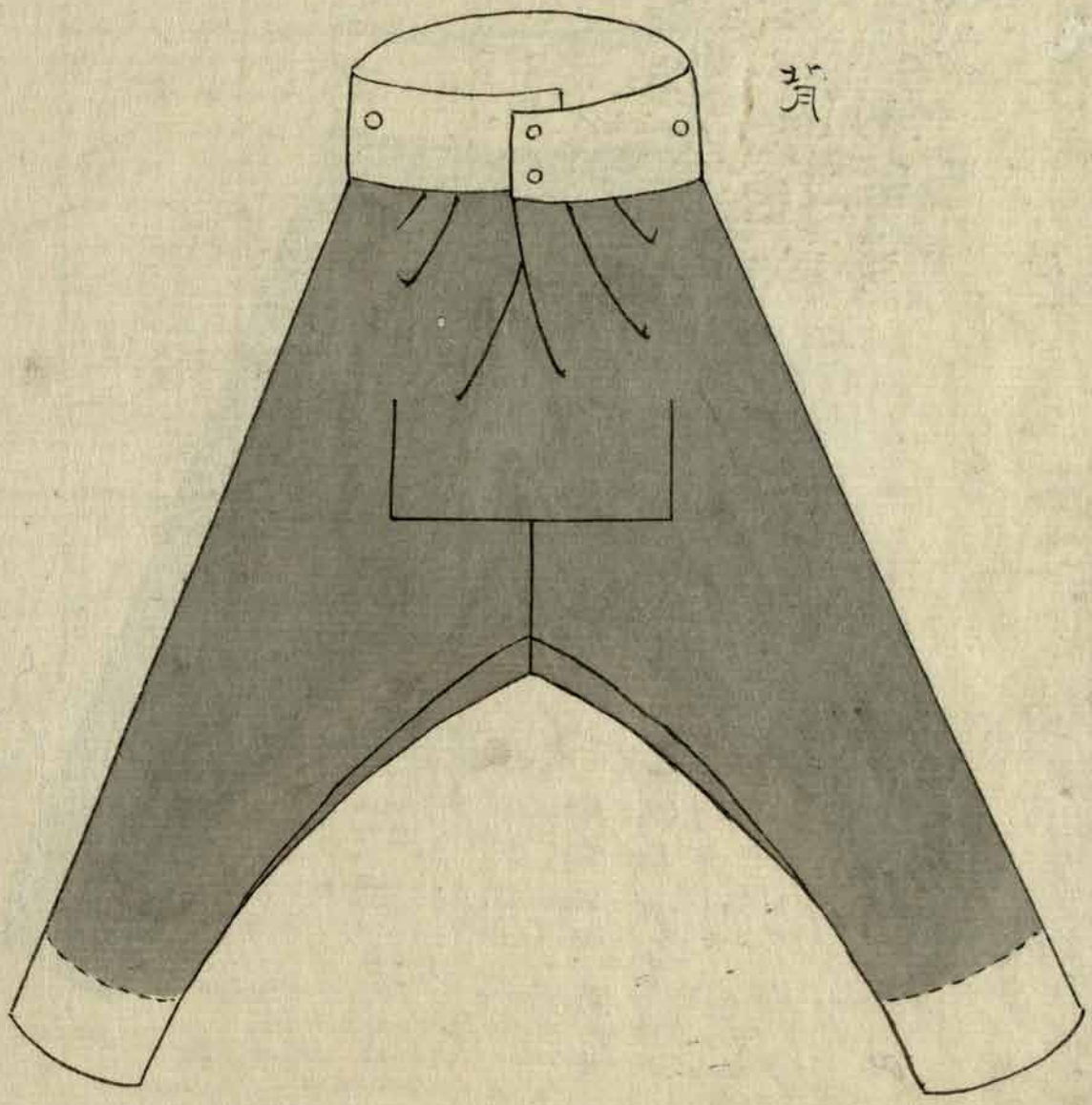
モノニカケオキ手ヲフク也

両端ぬけカザリ
メリヤスノ如キ糸
ニテ
ノカ
タヽタルモノアリ

シメノイ

薄葉木綿
股引





ヲテヤアラ
サラサ
蒲團

中ニ鳥ノモノ如キモノヽヲ入

此紋白

此紋白
此紋緑
此紋淡紫

環海異聞卷之四終

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

ALASKA HISTORICAL